



鉄スクラップ市況

鉄スクラップの価格が上昇しています。この主な要因は、韓国、中国の引き合いが強い為です。韓国では、東部製鉄の新電炉の稼働、ポスコの高炉改修が終わり、再火入れが行われ、来年にも現代製鉄の新高炉の火入れが予定されており、鉄鋼生産は、正に増産一色です。中国にしても、経済政策の恩恵もあり、増産基調です。経済成長も、個人消費に翳りも見られるものの、8%弱とまだまだ高水準にあります。ところが、韓国にしても、中国にしても国内のスクラップ発生が少なく、輸入に頼らざるを得ません。主には、米屑となりますが、入港までには、時間が掛かります。そこで、出港すれば3日程で入港出来る日本屑に注目が集まっています。

一方で、日本の電炉はというと、関東地区でみると、8月の生産予測は、昨年比12万トン減の35万トン弱と予測されています。率にして26%程度の上落となっています。それでも7月から比べると、若干の増産になっています。それに対して、スクラップの発生は低調のままです。関東地区では、30%程度の減少と言われており、一方で、地方では、半分以下との声も聞かれます。確かに、3大都市圏(東京、名古屋、関西)に日本の人口の50%以上が集中する現状では、止むを得ないのかもしれませんが、先日、ある地方の同業者から聞いた話ですが、なにしろ土地が余っているので、家にしても解体せずに隣に新築するそうです。工場にしても、稼働日数は増えていてもスクラップの量は少ないまま、つまり物を作っていない証拠など、確かにこれではスクラップの発生が少ない訳です。

海外勢を含めた需要サイドが強いのに対し、スクラップは住宅等の解体や、工場から出る端材などの発生品であり、思うに任せません。為替の関係もありますが、当面は、無い物高の状況が続くのではないのでしょうか。

アルミの市況

アルミの海外市況が上伸しています。以前もお伝えしたように、非鉄金属の価格は、ロンドンのLMEによって決まっています。アルミについては、年初の1568ドル(3ヶ月先物)から2007ドルと大幅に上伸しています。率にして30%近く上がっているのです。在庫も455万トンと過去最高の水準にあります。しかし、本当にこれほどの現物があるのか、実は大いに疑問なのです。これだけの量は物理的に倉庫に入らないとの話もあります。商社などの担当は、実際の売買から見るとこの在庫は非常に違和感があるそうです。ここまでジャブジャブに品物が有る感じは無いそうです。在庫もそうですが、價格的にも実力以上に高騰している感があり、ファンドなど投機的な影響が強い様です。経済指標の変動によっては、下落していくことも予想されます。

需要も冷え込んだままで、一部自動車向けなど70%程度まで生産が戻った所もありますが、大型のエンジンの車が減り、ハイブリットなどの小型エンジンが主流になる状況では、昨年並みに戻る事は無いという見方が多いのではないのでしょうか。今は、ハイブリッドですが、将来電気自動車の普及が進むと、アルミを使う場所が大幅に減って行く事になります。それを見越してか、大手のアルミダイカストメーカーは、海外へのシフトを強めています。中国、インドなどの新興国では、電気自動車への移行には、まだ時間が掛かるでしょう。それまでの間、自動車の保有台数の伸びに併せて、エンジン需要は伸びていく事が予測されます。実際に、中国のアルミ2次合金メーカーなどは、増産していくと表明しています。しかしながら国内の価格は、今後も国内生産されていく高級品種向けの高品位スクラップと海外二次合金向けの下級スクラップでは、輸出コストもあり乖離していくのではないのでしょうか。

年初の頃のように、底が見えない様な状況では無くなっており、市場も冷静さを取り戻してきています。振り返ってみると、この1年で市況は大暴落しました。しかし、資源をリサイクルして行く事の社会的な重要性は、微塵も揺るぎませんでした。そして、家電品の様に、商品の陳腐化が進んだ訳でもありません。この事が検証されただけでも、この1年は価値ある1年だったのかもしれませんが。

最近、アジアを旅する番組が目につくようになりました。日本の閉塞感すら吹き飛ばす様な活気があり、なんともエネルギッシュです。規制でがんじがらめの日本ですが、ルールによってではなく、知恵によって問題解決をする意識改革が必要ではないのでしょうか。